

# 探訪 新ライフスタイル

8日に閉会した東京五輪では日本選手が過去最高のメダル数を獲得した。新種目として注目されたアーバン(都市型)スポーツでもスケートボード競技で「金」を含むメダルラッシュとなった。

## 五輪で注目 都市型スポーツ

### ライフスタイル



ビジネスの場でもカジュアルなシューズを合わせる着こなしが増えている

# 足元彩るカジュアル旋風

アーバンスポーツはスケートボードのほか、BMX、スポーツクライミング、サ

ーフィンなど高さや高さの個性的なファッションと音を極限まで追求して競い、楽が加わって若い世代の人合っ新ジャンルだ。自由に、気を集めている。

注目したいのはオリンピックを提唱した。当時のスポーツ競技を通じて多くの人がアーバンスポーツを受け入れたことだ。世界の都市空間ではアーバンスポーツに接する機会が増え、それによって新たなライフスタイルが育つだろう。

松本大地

例えばこうしたスポーツで足元を彩るスニーカーが急に売れ始めている。最近の都市の空気を形成してきたカジュアルな要素が五輪を機に一段と強まりそうな勢いだ。

2017年10月にスポーツ庁は「FUN+WALK PROJECT(歩きやすい通勤プロジェクト)」

心地よさを優先しリュックとスニーカーでの通勤が定着してきた。少しカチッとした服でも、カジュアルなシューズや時計、シャツなどを合わせて「抜け感」

を演出する着こなしも当たり前になりつつある。こうしたカジュアル化に欠かせないシューズ類で、日本にも秀逸なメーカーがあることを「存じだろっか」。

昭和の省エネルギーや単にネクタイを外したクールビズとは違う、ビジネスのスマートなカジュアル化の端緒だったのかもしれない。

広島県にあるニチマンでは、1933年より代々続いたゴム製品づくりを生かして職人がカジュアルシューズを手作業で作る。筆者が工場で見にしたのは、それぞれの工程で人間の歩く動作を研究開発し追求した1つ1つの丁寧なモノづくりだった。

昭和の省エネルギーや単にネクタイを外したクールビズとは違う、ビジネスのスマートなカジュアル化の端緒だったのかもしれない。

履き心地を左右する天然ゴム素材の配合など足の健康を第一に考えた機能性を追求し、個性的で秀逸なデザインを加味する。自社ブランド「スピングルムーブ」

この時代のアーバンスポーツの広がりを見ると、デザイン性と機能性を併せ持つカジュアルなシューズ市場の可能性はさらに広がろうだ。

のスニーカーは、ミラノやパリコレクションに登場するなど「メイド・イン・ジャパン」のスニーカーの逸品に成長した。

この時代のアーバンスポーツの広がりを見ると、デザイン性と機能性を併せ持つカジュアルなシューズ市場の可能性はさらに広がろうだ。

のスニーカーは、ミラノやパリコレクションに登場するなど「メイド・イン・ジャパン」のスニーカーの逸品に成長した。